

県内各校で開催 青少年赤十字提供プログラム

青少年赤十字の提供プログラムは、赤十字奉仕団や赤十字職員が学校等へ出向き、生徒や先生、保護者の皆さまを対象に、防災や福祉などのプログラムを提供し、学校教育をサポートする活動です。

6月には県内28校の小中学校等で「健康・安全」「防災教育」「福祉教育」のプログラムを実施しました。

AEDを使った一次救命の「健康・安全プログラム」は特に関心が高く、それぞれの学校で、熱心に取り組まれる参加者の姿が見られました。

心肺蘇生法では見慣れない訓練用人形を相手に、胸骨圧迫と人工呼吸に躊躇される方もいらっしゃいますが、限られた時間の中で、心肺蘇生法とAEDの使い方をしっかりと習得され、万一の事故の時に適切な処置ができるように、一生懸命練習されていました。



行事名	場 所	
健康安全	神戸市立有馬中学校	西宮市立上ヶ原小学校
	神戸市立渚中学校	西宮市立神原小学校
	神戸市立桃山台中学校	西宮市立東山台小学校
	宝塚市立南ひばりが丘中学校	宝塚市立美座小学校
	神戸市立渦が森小学校	宝塚市立宝塚第一小学校
	神戸市立大沢小学校	篠山市立八上小学校
	神戸市立高倉台小学校	淡路市立北淡小学校
	神戸市立千鳥が丘小学校	淡路市立岩屋小学校
	神戸市立太山寺小学校	淡路市立富島小学校
	神戸市立港島小学校	市川町立甘地小学校
	神戸市立春日野小学校	塩屋幼稚園
	神戸市立岩屋小学校	よこやま幼稚園
	神戸市立つつじが丘小学校	安井幼稚園
	福祉教育	親和中学校
防災教育	神戸山手女子中学校	

花ことばは「しあわせ」

～ここを込めて、すずらの贈呈

6月6日、神戸赤十字病院にANAグループから手作りの「すずらの押し花のしおり」が届けられました。

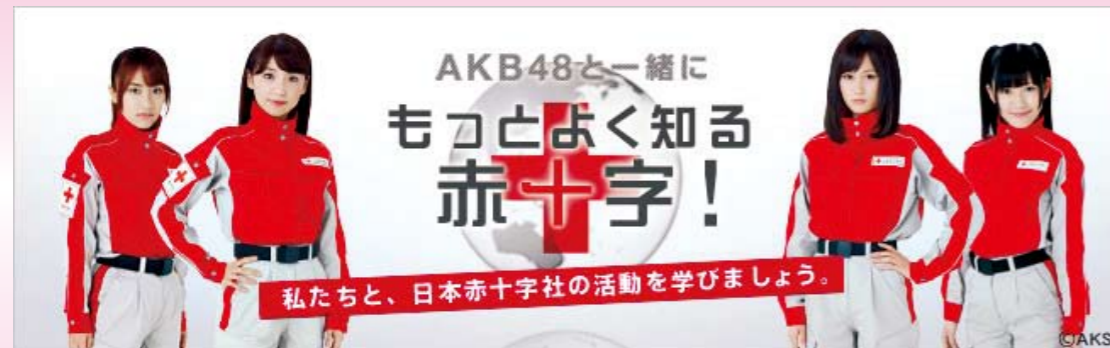
客室乗務員の方々から、一日も早い回復の願いのこもった可愛らしい押し花を手渡され、患者の皆さまからも笑顔がこぼれました。



押し花を手に、患者さんご家族も嬉しそう

赤十字の活動知ってる? AKB48と一緒に赤十字検定に挑戦!

東日本大震災以降、ボランティアや義援金に関する問合せが多く寄せられています。「でも、『赤十字』っていったい何をしているところ?」そう思われる方も多いはず。そこで赤十字の活動をもっと理解していただくため、特設WEBサイト「AKB48と一緒に赤十字」を公開しました。



アドレスはこちら! <http://www.jrc-kentei2011.jp> 赤十字検定などお楽しみください。

ひょうごの 赤十字

2011 7月1日



Contents

特集

平成23年度評議員会開催

赤十字に寄せられる「活動資金」と「義援金」

東日本大震災活動報告

●中播磨地区赤十字奉仕団員研修会

●県内各校で開催 青少年赤十字提供プログラム

●花ことばは「しあわせ」

～ここを込めて、すずらの贈呈

●赤十字の活動知ってる?

AKB48と一緒に赤十字検定に挑戦!



中播磨地区赤十字奉仕団員研修会



評議員会



平成23年度評議員会開催

6月8日、平成23年度評議員会が開催されました。

評議員会では平成22年度の事業報告が行われたあと「平成22年度兵庫県支部一般会計及び管下施設特別会計歳入歳出決算」について審議され、それぞれ承認されました。

井戸支部長の挨拶では、支部長自身も兵庫県知事として東日本大震災の被災地へ入り、瓦礫が平原一面に散乱している大惨状を目のあたりにして、今回必要なのは「街づくり計画」であり、街の復興のイメージを皆で共有して早く復旧復興のシナリオを作って動き出すことを期待され、兵庫県、関西広域連合として支援に取り組んでいく決意を話されました。

また、健康やこころのケアなどを巡る問題には、今後も長く対応する必要がある赤十字の医療への期待がこれからも続いていくこと、赤十字は引き続き被災者支援を行っていくことを話されるとともに、義援金に関して、ご協力いただいた奉仕団等の皆さまへのお礼と、被災者の方々への配分が遅れていることへの思いなどを述べられました。



井戸支部長の挨拶

赤十字に寄せられる『活動資金』と『義援金』

今年度も5月の赤十字運動月間には、皆さまからのご支援・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

日本赤十字社では、毎年5月を中心に年間を通じて赤十字活動を広く周知し、活動資金へのご協力をお願いしています。3月11日に東日本大震災が発生し、皆さまからのご支援、ご協力に対し、使い道や行き先の異なる「活動資金」「義援金」という言葉が行き交い「赤十字に預けたお金は同じではないの？」と、戸惑われた方も多いのではないのでしょうか。

また、一部報道では「義援金」の扱いについて語弊を招く内容もあり、日頃より赤十字をご理解いただいている皆さまにも、ご心配をおかけいたしました。

そこで、赤十字に寄せられる『活動資金』と『義援金』について、改めて解説いたします。

活動資金

社員、一般の個人・法人の皆さまからの社資や寄付金



日本赤十字社



日本赤十字社が行う活動のために

赤十字活動は、社員（会員）等の皆さまからお寄せいただく社費や寄付金と呼ばれる活動資金に支えられています。災害時には医療救護活動や、救援物資の配布などの支援のために、また平時には救援物資の備蓄や救護資機材の整備、救急法等の講習普及、ボランティアや青少年赤十字の育成、国際活動等に使われます。また、義援金募集にかかる事務費にも使用されます。

義援金

受付

日本赤十字社・共同募金会等

各個人、法人等



被災都道府県の配分委員会



被災市・町



被災者

赤十字で受付けた（お預かりした）義援金は『国または地方公共団体』に拠出される寄付であることから、赤十字から直接被災者の方へお金を配分することができません。

赤十字で受付けた義援金は全額被災地へ送金しており、義援金募集にかかる事務費や、赤十字活動には一切使用していません。

義援金の募集や配分方法については、各都道府県が定める地域防災計画で規定しています。義援金は、国または著しい被害が発生した地方公共団体に拠出されるものとされ、「国又は地方公共団体に対する寄附金」として法人税法や所得税法、地方税法等が適用され、法人では全額損金算入が認められ、個人では所得税と住民税の控除対象寄附金となります。

したがって、日本赤十字社など義援金募集を行う団体は、お寄せいただいた義援金を一切使用することなく、全額を著しい被害が発生した地方公共団体に送金しています。

救援活動



東日本大震災活動報告

3月11日の東日本大震災発生直後から絶え間なく続けている兵庫県支部の医療救護活動。

当初は岩手県釜石市教育センター横の鈴子広場でエアータントによる仮設診療所を立上げ医療救護活動を始めました。4月11日からは岩手県山田町内最大の避難所となった「岩手県立山田高等学校」に活動拠点を移し活動を展開、こころのケア専門チームの派遣も始まりました。

また、5月13日からは、「県立陸中海岸青少年の家」を拠点とし、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県支部が交代で青少年の家での診療と山田高等学校への巡回診療を行うなど、活動を続けました。

地元の医院や薬局が機能しはじめ、患者輸送バスが避難所と医院を巡回するようになったこともあり、医療の面は地元医院に引き継いで「県立陸中海岸青少年の家」の救護所は5月26日をもって撤収しました。

震災発生から3カ月が経った今、被災者の皆さんを取り巻く状況は良くなったわけではありません。明るく前向きに頑張ろうとしている被災者の方も多くみられましたが、一人一人の復旧復興はまだまだこれからです。

赤十字の活動は、5月30日から岩手県宮古市の「宮古市総合体育館（シーアリーナ）」で、近畿支部合同により「こころのケア」という形で継続されています。被災者の皆さんの話を聞き、こころの安寧になればとリラクゼーションを取り入れるなどして、不安な気持ちを軽減することに努めています。

被災地の一日も早い復旧、復興を願い、日本赤十字社は今後も支援活動を続けてまいります。



避難所で被災者の方の話を聞くこころのケア班



京都府支部とのミーティング

赤十字防災ボランティアサブリーダーの羽賀氏が、5月24日から29日にかけて宮城県気仙沼市で、気仙沼ボランティアセンター（VC）の救護班（地元の社協や赤十字等で構成）に入り、一般ボランティアの安全管理や衛生面での注意喚起業務及び宮城ボランティアセンターとの連絡等の活動をされました。

●活動を通じ、感じたことや気づいたこと

兵庫県支部防災ボランティアサブリーダー 羽賀雄紀

気仙沼VCでは通常の訓練で行った業務はほとんどなく、柔軟に対応できる能力、社協や他府県の日赤ボランティアとの協調性や、適度な（強すぎない）リーダーシップが求められた気がします。

当たり前かもしれませんが、ボランティアセンターを開業している社協が機能的に動いていました（なお、入手可能な書式は全ていただきました）。

山梨県支部のバイク隊は機動力がありました（細い道でも入っていける、続々と後任がくる）。

他の支部では赤十字ボランティアとわかる上着やベストを貸与されており、私は新潟県支部のものを借りて活動しました。



気仙沼VC救護班の待機所

兵庫県支部はリーダー・サブリーダーの数が少ない気がしました（たまたま一緒にいただいた新潟県支部や山梨県支部の数が多かったのかもしれませんが）。

毎日のように外国人ボランティアが来られ、英単語の知識があればなおよいと思いました（例：消炎鎮痛剤「イブプロフェン」を英語で訴えられる方もいました。何回か聞いてようやく理解できました）

赤十字奉仕団



中播磨地区赤十字奉仕団員研修会

6月18日、神河町中央公民館で中播磨地区赤十字奉仕団員研修会が、約200人の奉仕団員等の出席で開催されました。

奉仕団員信条朗読の後、中野中播磨地区赤十字奉仕団委員長、玉田中播磨地区長の挨拶がありました。

その後、ビデオ上映に続き、日本赤十字社兵庫県支部東田事務局長からの講演「東日本大震災における日赤兵庫県支部の救護活動及び災害への備え」がありました。

東日本大震災の被災者の皆さんへの義援金の呼びかけも積極的に行うなど、「すべての人びとのしあわせをねがい陰の力となって人びとに奉仕する」の信条どおり、日頃から熱心に活動を行われていますが、今回改めて奉仕団員それぞれに平時、災害時に対する奉仕活動への思いが高まった研修会となりました。



挨拶される中野委員長